

みずのみち かわら版 No.1

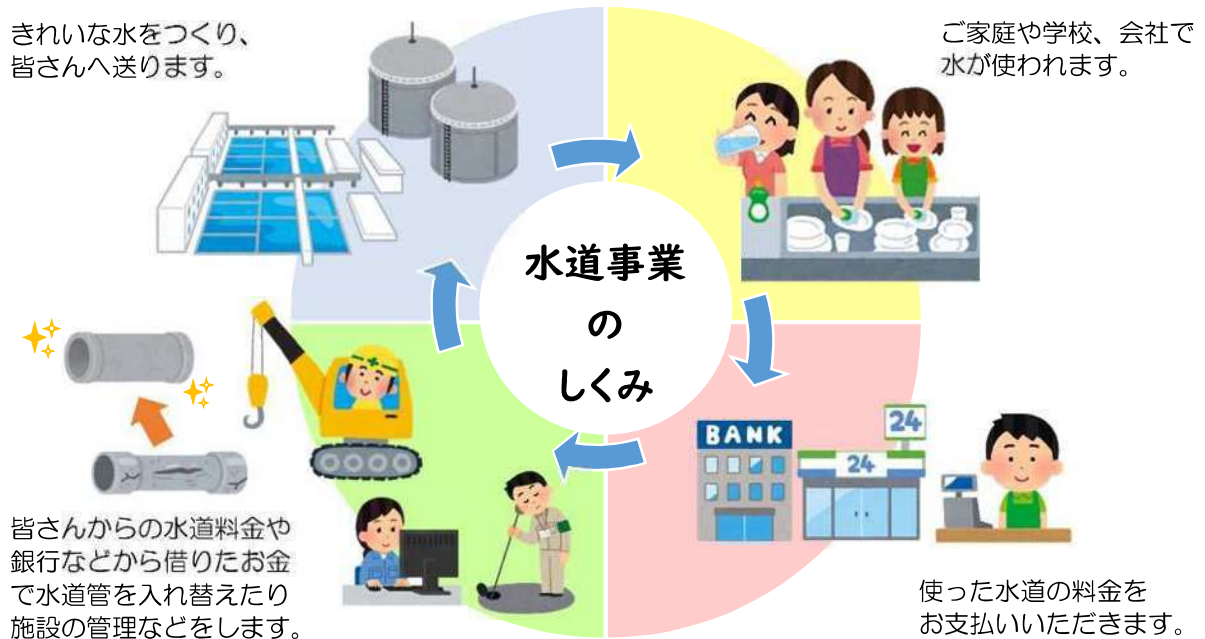
発行 令和2年11月1日
 熱海市公営企業部水道温泉課
 ☎0557 (86) 6483
 ✉koeikigy@city.atami.shizuoka.jp

熱海市では、50年、100年先を見据え「安全」「強靱」「持続」を兼ね備えた水道を目指しています。

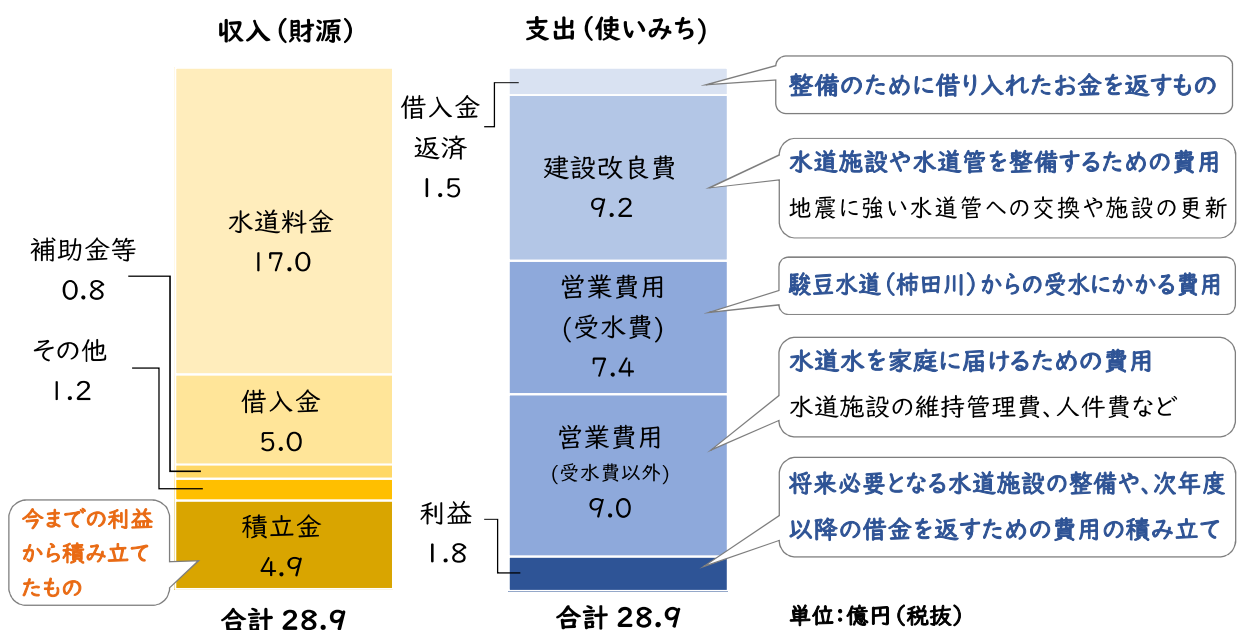
熱海市水道事業の情報を発信し、お客様へお届けすることもその一環と考え『みずのみちかわら版』を発行することといたしました。第1号では、水道事業のしくみや収支、水道管の老朽化と耐震化についてお知らせします。

水道事業のしくみ

水道事業は、独立採算で運営しています。お客様からお支払いいただいた水道料金で水道施設を整備し、各家庭へ安心安全な水をお届けしています。



熱海市水道事業 令和元年度収支について



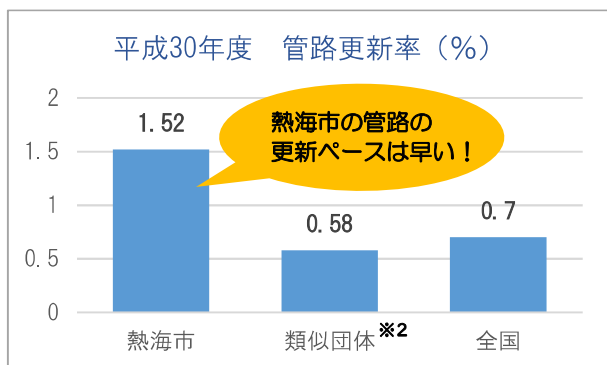
熱海市の水道管の老朽化と耐震化

熱海市では老朽化した水道管を地震などの災害に強い水道管（耐震管）に取り替える工事を重点的にすすめています（グラフ①）。にもかかわらず、現在の市内の水道管は古く、法定耐用年数※¹（40年）を経過したものが多い状態です（グラフ②）。これは、熱海市の水道の歴史が古く、全国で17番目に創設した歴史ある事業であるとともに、高度経済成長期に集中して新しく設置したり、取り替えをした水道管があるためです。

今後も、経営状況をみながら管路更新（水道管の取り替えなど）を計画的にすすめていく必要があります。

【グラフ①】

※¹ 法令で認められている通常使用可能な期間



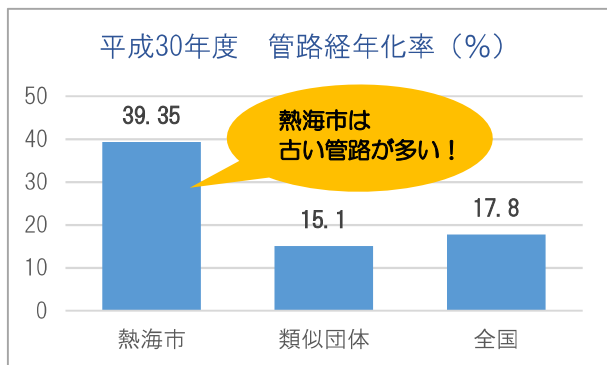
管路更新率とは

平成30年度中に更新した水道管の長さの割合を表しており、水道管の更新ペースや状況を把握できます。

この数値が2.5%の場合、すべての水道管を更新するのに40年かかる更新ペースとなります。熱海市は全国や類似団体よりも数値は高いので、更新ペースは早いのですが、それでもすべての水道管を更新するのに40年以上かかってしまうことがわかります。

※² 市町村を給水している人口により分類したもの。類似する他市との比較により、熱海市の特徴を把握することができる。

【グラフ②】



管路経年化率とは

平成30年度現在の法定耐用年数（40年）を超えた水道管の長さの割合を表しており、水道管の老朽化度合いを示します。

熱海市は39.35%と、全国や類似団体と比べて高い割合となっていることから、耐震性のない古い水道管の割合が多く、早急に耐震化を進める必要があります。

水道料金について

水道はまちごとに経営されているため、水道料金もまちごとに異なります。

現在の熱海市の水道料金は1,255円（家庭用で1カ月に10㎡使用した場合）と、静岡県の平均より高く、全国の平均よりは低い位置にあります。

近隣市町では、函南町が1,026円、三島市が940円と、熱海市より安価な水道料金です。

水道料金は“水道水をつくってご家庭に送るためにかかる費用”が、まちによってまったく異なるため差が出てしまいます。

では、なぜ熱海市の水道料金は近隣市町よりも高いのでしょうか。

静岡県水道料金ランキング

①	小山町	384円
②	沼津市	460円
③	長泉町	570円
④	焼津市	748円
⑤	富士宮市	825円
⋮		
②5	熱海市	1,255円
⋮		
③2	伊豆市	1,625円
③3	菊川市	1,655円
③4	牧之原市	1,760円

家庭用で1カ月に10㎡使用した場合の静岡県内最低・最高料金
参考：平成30年度市町財政の状況（静岡県）ほか

静岡県平均
1,109円

全国平均
1,555円

参考：平成31年4月1日水道料金表（日本水道協会）

まちの地形が大きく関係している!?

水道料金は、水源の水質の良さや水源からまちまでの距離など、条件に恵まれ少ない手順で水道水をつくらせて送れているまちは安くすることができます。

反対に、難しい条件が重なったり、まちの地形により、水を送るためのポンプの運転が必要だったりすると高くなります。

熱海市の配水池の数は県内一

熱海市は、ほかのまちと比べると多くの配水池を所有しています。これは、山に囲まれた傾斜地の多い熱海特有の地形によります。その数は115施設と静岡県内で一番です。

水圧が低くて水の出が悪かったり、逆に水圧が高すぎてご家庭の蛇口などが壊れてしまったりすることのないよう、市内各所に配水池を設置し、各ご家庭へお届けする水圧を調整しています(図①②)。

熱海市は、多くの配水池の維持管理費用や、山にある配水池まで水を送るためのポンプの運転が必要であるため、多くの電気代がかかってしまいます。

人口減少にあわせて水道施設も適正な数に

少子高齢化に伴う給水人口の減少や節水機器の普及に伴い、熱海市の給水量(水の使用量)は減っています(グラフ③)。

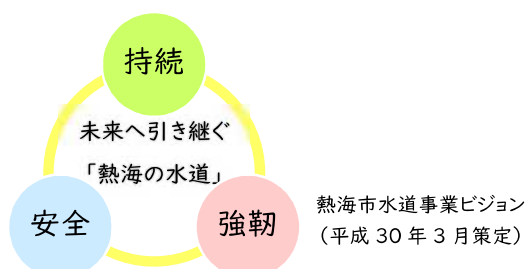
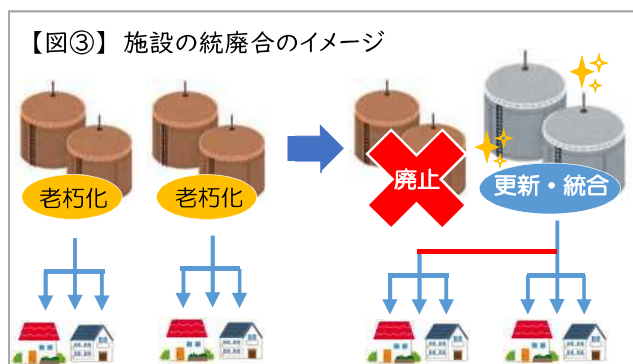
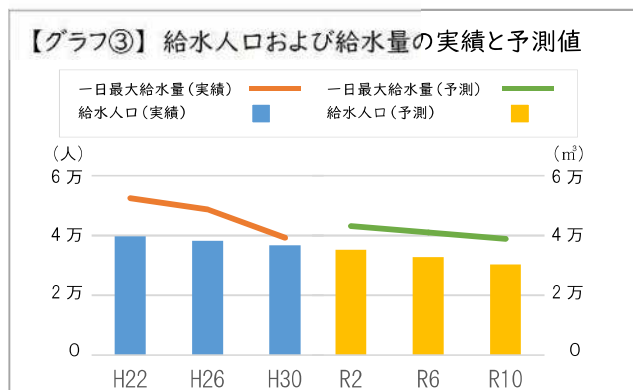
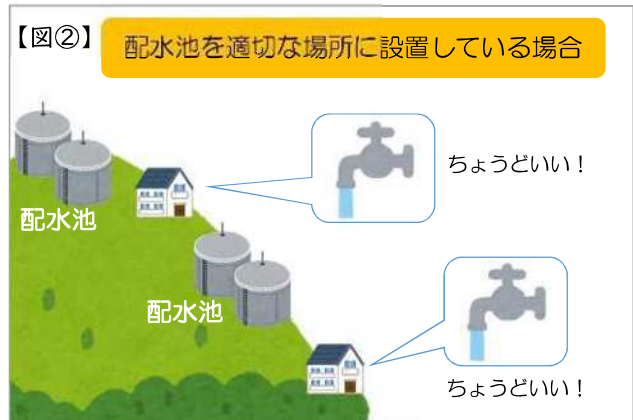
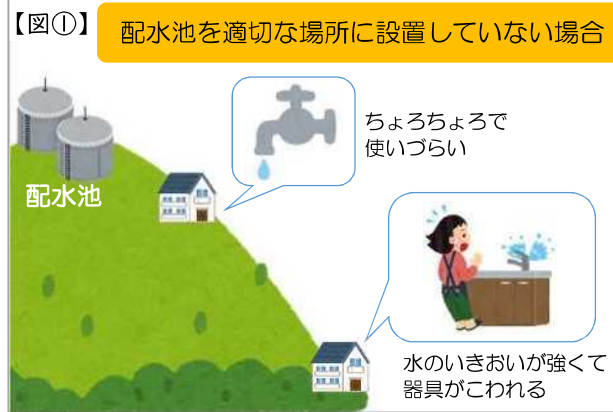
市では、配水池の更新を進めていますが、今後も減少していく給水人口を見越して配水池を更新する際は施設の統合・廃止をしたり、規模を小さくしたりと、先を見通した適正化につとめています(図③)。

50年、100年先を見据えて

全国的にも老朽化した施設の更新や耐震化は重要課題とされているなか、今後も日本の人口は減少していくため、多くのまちでひと家庭あたりの水道料金の負担額は大きくなっていくと考えられています。

市の給水収益も毎年減少していく見通しとなっているため、今後はより一層厳しい経営環境におかれることが想定されます。

50年、100年先の未来へ「安全」「強靱」「持続」を兼ね備えた熱海市の水道をつなげるため、市では水道料金の見直しを行ってまいります。



水道管の凍結破壊を防ぎましょう！

最低気温が**-4℃以下**になると、水道管の水が凍りやすくなります！

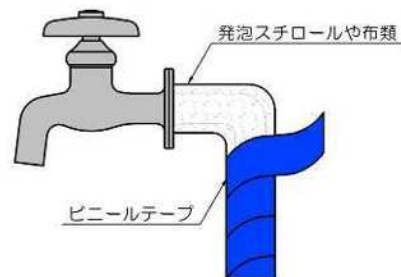
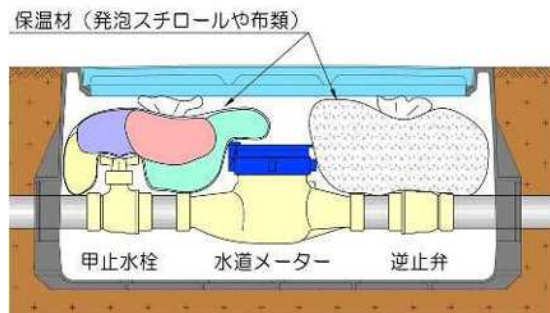
また、真冬が続き、日が当たらず風あたりも強い場合や、長時間水道を使用しない場合も水道管が凍りやすくなります。

ご家庭の水道管は、お客様の大事な財産です。解氷作業や修繕工事はお客様の費用となりますので、大切に管理してください。

水が凍ると膨張して
水道管が破裂することがあるんだよ！

凍結防止策

- 水道管に保温材や布を巻き付け、直接外気に触れないようにしましょう。
- メーターボックスの中に発泡スチロールや布などの保温材を入れましょう。



もしも凍結してしまった場合は

- 外気温の上昇などで、自然に溶けるのを待ちましょう。
 - 水道を早く使用したい場合は、タオルなどをあてて、その上からぬるま湯をかけてください。
- ※熱湯はかけないでください。管が膨張し、破裂する恐れがあります。

水道管や蛇口が破裂してしまった場合は

止水栓（元栓）を閉めて水を止め、熱海市水道指定給水装置工事業者*に修理を依頼してください。（修理費用はお客様のご負担になります。）

※熱海市水道指定給水装置工事業者につきましては熱海市ホームページをご覧ください。